

高等学校グランドデザイン会議第3回第1専門委員会概要

日時：平成18年11月1日（水）

13:30～16:30

場所：県庁北棟 8階A会議室

<出席者>

豊川委員長 前田副委員長 荒瀬委員 石山委員 佐井委員 櫻田委員 佐々木委員
古舘委員 牧野委員

開会

司会

それでは、ただ今から「高等学校グランドデザイン会議 第3回 第1専門委員会」を開会いたします。

次第によりまして、事務局から議事録・地区部会意見について御報告させていただきます。

議事録確認

【事務局が、配布資料に基づき説明。】

地区部会意見報告

【事務局が、配付資料に基づき説明。】

協議事項

司会

続きまして「3 協議事項」という事で、適正な学校規模を実現するための方策についてですが、ここからは豊川委員長に進行をお願いします。

豊川委員長

それでは協議に入りたいと思います。資料1と資料2ですが、第2回目の会議をまとめたものが資料1で、右側に高校長協会の意見を対比して示してあり分かり易くなっていると思います。資料1と2に分かれています。今日は時間がありますので、資料1を前半、資料2は後半に議論する事を考えています。

資料1については皆さんの御意見のまとめです。皆さん目を通していないでしょうかざっと読んでいただいて、もう一度確認や御質問があればいただきたいと思います。私は先程見せていただいたのですが、1学年あたりの適正な学級数についてまとめていますが、ざっと見るとこの委員会で色々出された意見と高校長協会の意見は似ていると思います。高校長協会の御意見の方が、この委員会よりもはっきり示しているようですが。この委員会にも現役の校長先生がいらっしゃいますので、これは分かっている事だと思いますが、この委員会の意見は少し弱い表現です。高校長協会は、大胆という言葉は当たらないかもしれませんが、そういう感じで書かれています。

「普通科と職業学科と総合学科の在り方」について、ここでも高校長協会の方ははっきりと書いている気がします。普通科を増やしても良いのではないかとというのが前回出た御意見だったと思いますが、高校長協会は上級の学校への進学に対応できるような体制にしたいと言っています。普通科、職業学科、総合学科の目指す役割については、これはどちらも同じだと思います。私は生涯学習関係の講座をやっていますのでピンとくるのですが、要するにすぐに進路を決めないで全体像を学習できるような体制を作るべきだというのが職業学科という気がしています。

総合学科も同じような事ですが、まだ中学校では進路を決められない人が多いのは当たり前なので、総合学科に入ってもらってそれから進路を決められるような高校も必要で、そのための整備が必要だろうと書いてあります。

その他、全県的視野では、だいたい同じですが、本会議の意見では自然に学級減が行われれば理想的だという事でしたが、そうはいかないだろうという感じがあります。色々ありますが、地域なりの情報を正しく掴む事が求められていると思います。

資料1について追加意見がある方はお願いします。

A 委員

高校長協会の検討課題という事ですが、どの部分の校長先生の御意見なのでしょう。例えば、進路指導部会とか教育課程委員会とかがあると思うのですが。

事務局

事務局から高校長協会にお願いしてまとめていただいたのですが、部会という事ではなく、それぞれの部会から意見を出していただいたものをまとめて、全体の意見を集合し総意として出していただいたものです。ここには載っていない意見もあるでしょうが、高校長協会としてはこういう形で答を出していただきました。

B 委員

私の所へは高校長協会そのものからも来ましたし、普通科部会、定通部会、二北部会からも来ました。全部の校長の意見をかなり吸い上げたのではないのでしょうか。最後は常任委員会でまとめたのでしょうか。

豊川委員長

アンケートをやってという事ですか。

C委員

各部会、委員会、地区毎に意見を全部集めて、手分けして精査して提出しました。ですから、まずほとんどの校長先生の意見が反映されているという事です。

A委員

学級減や統廃合について話されるようになって20年近くなると思いますが、前から悩んでいる事が一つあります。今、高校長協会が色々な経験から都市部では6～8学級が良いだろうという話がありましたが、結局校長先生がどういう規模の学校を経験してきたかで相当見方が違ってくるのではと思います。高校教育の在り方が取りざたされていますが、高校教育＝大学進学という考えでいいのでしょうか。気障っぽくなりますが、人間教育を考えるべきという視点から見る事も必要ではないでしょうか。これはどちらかと言うと、平成21年度以降の事です。相当先の事を見越して行かないと話しが噛み合わないでしょう。この間のお話しでは、やはり6～8学級が良いとか、先生が集まるからとか言われましたが、果たして子ども側から見た場合に、1学年2学級は何故駄目なのかという視点が少し希薄なのかなという感じもするのです。そろそろ色々な視点で見てはどうでしょうか。多勢無勢で数が多ければ良いではなく、6～8学級のメリットとデメリット両方について、もう少し高校長協会からも御意見をいただきたいのです。4学級の学校でも良い教育をしている学校を見えていますから、そういう視点でも見ないと、単に規模だけで括っていいのかという感じがします。新たな学校は作らなくても、今ある学校を十分利用できますので、小さくて何故悪いという視点があってもいいのかなと思います。そういう小規模であるからこそ救われて、人間的にもいい環境の中で穏やかに高校教育を受けられる事もあるでしょうし、1学年8学級ともなると、旨く溶け込めない子が出てくる事もあるのです。大規模校の良さ、小規模校の良さというものがあっていいのかなと感じています。先生がたくさんいれば良いというのは先生からの視点であり、いかに收容させる器を作るかだけで、子どもからの視点が少しあっていいのかなと思います。難しいかもしれませんが。

C委員

もっともな御意見だと思いますが、その一方で、前回の県の説明では、定員減を各学校に平等に割り振って行くと、青森高校、弘前高校、八戸高校といった8学級規模の学校でも、4～5学級になってしまうという事で、全体の規模の縮小になってしまうという面があります。どこかを削らない限りは、大規模校も縮小化されるという事です。その辺は考えなければいけません。

D 委員

私も十分承知して考えているのですが、前回に話した事と同じになりますが、教師の立場からかもしれませんが、2学級ではまず生徒の活動上、科目の設定の幅が狭められる、部活動が少なくなる、部活の予算が無く自分の希望する部活がなければ参加率が下がる、他の行事の参加もままならない。そういう部分で、2学級しかなければいわゆるいい意味では仲良し学級ができ、悪い意味では切磋琢磨ができないとすごく感じています。仲良くやっているなとも思いますが、もっと伸びてもいいのではという部分も考えられるのです。高校教育の原点をどこに置くかという事にもなりますが、高校教育のレベルという事で考えれば、もう少し色々な特別活動・学習活動を通じて経験する部分の積み上げを高校のレベルとして考えると、やはり3～4学級が必要ではという意見です。

豊川委員長

このグランドデザイン会議に出席して思う事は、やはり高校は小・中学校とは違うのでしょうということ。義務教育は過ぎて、対社会的に巣立って行かなくてははいけません。そういう段階の教育なり指導が必要な学校だと思います。色々な地域がありますし、全て画一的に数を決める事はありませんが、対社会や対世界で見るとような教育観点も必要なので、分けて考えてはという気がします。ここの会議で扱う中身ではありませんが、そういう事も考えた上で規模を考えなければならぬと思います。

例えば、大間高校なんかは通学できないでしょうから、どうしても必要なのかなという気がします。深浦も車はありますが遠いですし。それらを全部平均してなくするのではなく、特色を付けて対応するのです。こういうものを作るんだ、という事があってもいいのではないのでしょうか。ですから、市部とか、面倒を見なければいけない所を、はっきりと確認した上で配置を考えなければなりません。

いずれにしても、子ども達をしっかりと育てなくてはいけない義務もある訳です。言葉は悪いが、そこまで行けない子ども達もいるかもしれないが、それはそれで育てなければいけません。そうでなければ、人が育つ場がないのです。

E 委員

いつも三本木高校は、旧3市に追いつけというのが合い言葉でした。今までそうやってきて今日がある訳です。それに対して、青森高校等も平成20年度から学級数が減る事になっているのを見ると、人数が減ると活力・元気がなくなる気がするのです。全部が全部ではないが、そういう目標となる学校はちゃんと残してもいいのではと思います。また、地域には2学級の学校があってもいいと思います。

いずれにしても、青森県としてモデル的な学校をおいて欲しいと思います。

B 委員

高校長協会の意見の中で、事情によっては2～3学級規模の学校も考えられると言っています。岩崎町の子ども達は、多くは能代市の高校への進学を希望し、深浦高校に進学を希望する生徒は少ない状況です。大間町の場合は、地理的に逃げ場が無い事もあり、大間高校を希望しています。このように子ども達の視点を通して、ある意味そこに残りたい、他に行きたいという違いが出て、存続について考えて行く方法もあると感じています。

豊川委員長

三本木高校は、青森高校、弘前高校、八戸高校に迫り着けと頑張っているのですか。それぞれ良い所があるのだからと思うのですが。

E 委員

そうでしたね。部活でもそうでした。

C 委員

一番大事にしたいのは、子ども達の成長過程において人対人の触れ合い、切磋琢磨し、多少の挫折を味わいながら成長して行く部分を大切にしたいのです。物理的な事はどうにでもなりますから。私も3～4学級の学校を経験しましたが、やはり色々な可能性を持った人間、自分には無いものを持った人間が、学校が大きくなればなるほどいるのです。A委員がおっしゃったように、2学級でも良い教育をしている学校もありますので、そこまで網をかぶせようとは思いませんが、地区の中で統廃合できるものはして、大規模校で考えて行く方が子ども達にとって良いのではという気がします。子ども同士の触れ合いの中の教育を考えたいです。

A 委員

私は大きい方がいい、小さい方がいいと言っている訳ではありません。そういう子ども達もいるという事を踏まえ、同じように暖かい目で見に行く視点がないと、受け入れられない面が出てくるのではないかなと感じるのです。私も比較的大きい学校を経験してきていますが、2学級の学校を経験した事もあり、そこで救われる子ども達も相当数いるのだなと経験しました。地理的な面でも、2～3学級の学校というのを残す必要はあるのでしょうか。従って、これまではどうやって集めるかだったのでしょうか、その地域にどれくらい子どもがいて、どれくらいが来るかというように、地域毎の捉え方をしないといけません。将来は必ず相当減って行く訳ですから、無理のない範囲で学級数が旨く噛み合っていけばいいと思います。大きい視点だけではなく、小さい視点も残しながら検討して行かないと、答申になった場合に一方的過ぎやしないかと言われる気がします。

F 委員

この会議そのものが、その辺の調整の問題をどうするかという事が問題です。皆さんがおっしゃったように、非常に活気のある市部の大規模校を削って郡部の学校を残すのも問題がありますし、生徒の質の向上、教育の質の向上のためには、教育の拠点化や教員の切磋琢磨による質の向上等を戦略的に行う、前向きな姿勢が当然必要です。しかし、これから議論になると思うのですが、郡部の子ども達が経済的に困る、といった社会的な背景をどう捉えるかという事です。なんとなくですが、この議論は、市部に厚く郡部を切り捨てる方向に流れがちになるのだと思います。現実には2,700人も減ってしまうのですから、どこを削るかという話にはなりません。やはり、A委員がおっしゃったように、教育の格差を起ささないために郡部をどうするかという事は、小規模校を残すか残さないかという議論になる訳ですが、そこは十分に配慮して議論を進めなければならないと思います。

G 委員

どうしても、郡部の学校と市部の学校を同じ話題として議論するのは難しいのではないかと思います。この地図を改めて見ますと、いくら通学の方策として何かするとしても限界がある学校があり、これは残さなくてははいけません。

また、市内の学校に手厚くというのは、決して良い方策ではないと思います。先日宮城県の先生とお話ししたのですが、70～80年の歴史があるナンバースクール級の高校をやっと統合する事ができたそうですが、同窓会、校章、校歌等様々な問題があったそうです。いずれ子ども達がこれだけ減ってきますと、本県においても市内の普通高校も統廃合を避けられないという前提で話をしないと、教育機会の均等という面から見ると非常にアンバランスな結果になるのではないのでしょうか。思い切った方策が必要だと思います。

前田副委員長

原則的には2,700人もの減少を受けて、統廃合が必要という方向は分かります。しかし、市町村合併でも、本県は、いつまでやるといい事があると、大きい都市を作る事を進めましたけど、選択するのはその市町村であって、うちのうちなりに町の特徴を出しながら残るといった選択をした市町村も、全国的にはたくさんあると聞いています。流れに乗って数合わせをするのではなく、郡部の子ども達が、私達は市部の学校に行けないけどここで育ててこの地域に残って町興しをしたいのだ、という子ども達を育てて行かないと、市部にばかり人が集まり残された所が過疎になって、若者のいない町村になってしまいはしないかという危惧が市町村合併の時からあります。生涯学習関係の仕事をしていきますと、合併の中心になった所に引きつけられて、他の所は今までやってきた色々な特徴などが無くなって行くという問題が出始めています。十年経ったら落ち着くのではないかと思います、その頃にはもしかしたらその町村の歴史的な良さ等が消

されてしまうかもしれないという危惧を抱えています。高等学校の場合も何らかの形で我々がそういう視点を持っていなければなりません。2学級の学校でもそれぞれ是非残すべきですし、その地域の特色を持たせた学校経営の中で切磋琢磨し、地域と結びつけた形で成長して行く子ども達を育てなければなりません。みんなが大学に行く訳ではないのですから。

豊川委員長

今のような意見もありますが、高等学校の教育というのは特定の町のための教育ではない所があります。そこで育ったからそこに残るのではなく、どんどん世界に出てそれから帰ってくるという事もありますし、高校レベルだとそうだと思います。柔軟に対応する必要はありますが、若者が育って行けるような教育システムをどう作るのかです。市町村合併があるので統合し易いという事もありますが、いずれにせよここで議論しているのは、青森県の高校教育をどうするのかという事だと思います。もちろん社会の事も考えますが、思い切って市部と郡部地域を一緒にしないで分けて考えた方が考え易いのではないのでしょうか。

D委員

やはり地域によって実情が違うので、この配置図を眺めながらある程度具体性を持ちながら進めて行けば、市部の学校の統廃合も現実としてやむを得ない部分が出てくるのではないかと思います。ですから、これを旨く利用しながら会議を進めた方がいいのかなと考えました。

F委員

先の話になるかとは思いますが、検討会議の議論を聞いても、郡部の高校を統合する際の経済的な軽減策に対しては色々な意見があるようですが、それを前提とするのかしないのかで随分議論が違ってくるのです。しかし、それは県の教育委員会のマターなのかと言うと、どうなのだろうという気もします。現実には他の県を見ても、学校を統廃合するとなると反対期成同盟みたいなものができて、議会でも大変な社会問題になり、そこで条件を通すみたいな話になってきます。いずれ青森もそうなるのかは見通せませんが、皆さん漠然とはこういう条件であれば統合が可能ではないかという雰囲気がありますが、そこについて教育委員会はどう考えていますか。

事務局

結論ではありませんが、基本的に色々な方から御意見は出ていますが、通学に対して補助するのは県としては難しいです。これまでの経緯からも、統廃合がない状態でも自分の行きたい学校へ通っていますし、バス代をいくらもかけて通っています。そういう子ども達がいる中で、その学校に通う子ども達だけにバスを出すという補助を県のレ

ベルですというの、逆に不公平と言われるのではないかと考えています。全ての学校がバスを持って、通いたい全ての子ども達の所に回って行ければ良く、文句も出ないのかも知れませんが、現に通っている子ども達には手当が無いのにこれからそういう状況になった子ども達には手当があるというのは難しいものがあります。別の良い方法、例えば市町村やNPOがお金を出し合って複数の学校へ通うバスを出す等は考えられるとは思いますが、現段階で県の予算で手当とするというのはなかなか理解が得られないのではと思っています。

かつて、むつには寄宿舎があり、遠い子ども達をかなり入れていた時代もありましたが、交通事情の改善等により、寄宿舎が廃止になったのが今の姿ですので、今後そういうニーズがあるのかと考えた時に集団生活は難しい所があるのではと思いますので、県としては踏み出せないのです。ニーズが確実に見込めるといふのであれば別かもしれませんが、私見ですが、現状では県の手当は難しいと思います。

豊川委員長

昔は高校に寄宿舎がありましたね。三本木高校にもありましたよ。

奨学金制度はどうなっているのでしょうか。大学は半分の人がもらっているのですが、高校はどうなっているのでしょうか。

E 委員

女性のボランティア、ロータリーみたいなものやっけてまして、奨学金を毎年あげています。両親が出て行って、祖父母が面倒を見ているがその子は三沢高校に通いたいと言って通うのです。年収が300万くらいなのに、どうして地元の高校や定時制に入らないのだろうと疑問があるが、何十人も奨学金を続けているのですが実際にそうなのです。地元にも高校があるのに、そんなにお金が必要だったら地元の高校でいいのではないかと思うのです。ボランティアですので奨学金は返さなくていいのですが。内申書に収入等も書いてくるのですが、お母さんが逃げると、お父さんもいなくなるというのが多いです。自分で行きたい所、可能性がある所というふうを選んでいるのでしょうか。

G 委員

深浦では地元の子は能代高校へ行くというお話しがありましたが、いずれ子ども達が減って行った場合、校舎化になって最終的には閉校という形になるのでしょうか。

事務局

校舎化する事までは今の第2次計画で決まっていますが、これから先は先生方に決めていただきたいと思います。

G 委員

例えば、深浦高校へ入る子どもが5～6人しかいないという状況になると、現実的にどうなるのでしょうか。それが読めた段階で閉校しなくてはいけないのか、あくまでも校舎として残す前提で考えるのか。それをこの場で考えるのですか。

A 委員

この地図で校舎化になる学校には、年度の数字を入れていけばいいのかなと思います。校舎化の学校は更に廃校になって行くのか、そうであればその大体の基準がどうなのかは我々が決める訳でしょう。例えば、募集定員の何%に満たない状態を何年続けたら廃止しますと決めて欲しいのが本音ではないでしょうか。

私は下北に長くおりますので、昭和55～56年度あたりは子どもが非常に多く、どの町にも高校を作ろうという事で、川内高校、大畑高校が独立した形でできたのですが元々はなかったのです。ですから、四半世紀かかって元に戻ってしまう感じなのです。現時点ではこれらが廃止になったとしてもむつ市内に通える範囲内ですが、問題なのは大間高校です。通うのは無理だとすると、2学級になったとしても残すべきかなという意味だと思います。そういう事が分かるように表現して行けばいいのではないかと思います。

深浦高校は普通科と商業科があるのですか。

事務局

1学級の総合学科です。

F 委員

非常に素朴な疑問ですが、バス路線は大間からむつまでは通えるような便はあるのですか。

A 委員

十年以上前から、朝5時に佐井を出発してむつ工業高校へ通っています。ただ、大間高校全体を通わせるのは無理だと思います。要するに、職業学科だから無理してでも通うという事であり、そのバスには大間から通う子は乗せていません。大間高校がつぶれてしまいますから。やはり学校を残すために政策的に乗せない事にしています。ですから、川内や大畑からは昔からバスで通っていますから無理はないのです。

F 委員

路線バスですか。

A 委員

保護者達が全て自分達でチャーターして通わせているのです。路線バスは高いので、

タクシー会社などをチャーターしているようですので、部活や日曜日も通っています。そういう工夫はやっていますし、やらざるを得ないのです。

事務局

小泊、市浦あたりもそうでしたね。両村でバスをチャーターして、五所川原市まで子ども達に通えるようにスクールバスを出していました。

F 委員

公的助成等を自治体がやっていたのですか。

事務局

補助はしていると思います。

A 委員

うちはしていません。全て持ち出しです。下宿するよりは半分くらい安いですし、親元から通わせる安心感もありますし。

事務局

大湊高校等もそういう感じでしたね。

A 委員

大間高校、中里高校、金木高校のように、学校が消えるという事は子どもがいなくなるのと同じ事ですから、そうするとその郷土芸能が高校生に育って行かないという弱さがあるのです。せっかく小・中学校で育て上げた伝統が、移動すると切れてしまって将来に繋がって行かないのです。ですから、やはり郷土芸能がある所では、2学級の学校があってもいいのではないのでしょうか。その事が地域と結びつき、活性化する大きな基になるのですから。学校がないと、県全体としての潤いも奪ってしまうような感じがします。人が移動するという事は文化も移動するという事で、伝統が消滅する可能性もあると過去の経験から学んでいます。まして、この計画は平成30年までの10年スパンという大きな変動の中でやるのですから、2学級の良さ、大規模校の良さといった、これまでと違った視点を入れて行かないと青森県らしさ、青森の良さが出てこないと思います。そういう方向ではいかがでしょうか。

事務局

100人いた時に、90人が進学する訳ではないのです。例えば、市部であっても大きい学校と、良く目が届き世話ができる小さい学校があってもいいのではという気がします。

A 委員

今までの第2次計画とは違った方向の考え方をして行かないといけない時代が来るのではないのでしょうか。

やはり、まもなく校舎制になる学校がたくさんある訳ですが、どこまでもというのはまずい訳です。やはり、ある一定の努力をした学校は残って行くというスタイルを取り、努力した学校は1学級でも残して行くという姿があれば、基準を決めて駄目であれば廃止というのもしやむを得ないかなと思っています。やはり、コミュニティーを作るには地域が努力しないと残らないのです。全てが校舎制=廃止ではなく、残る者は残らせるというのがいいのではと思います。

豊川委員長

検討会議で田子高校の事を大事だという御意見がありましたが、地域の人が高校を存続させる、本当にそれで良いのかと思います。そこに全部子どもを入れてというのは、親のエゴだと思います。子どもが地域に残る事が地域の文化等の面で良いという事に誰も異議はないと思うのですが、もっと、真の意味で文化というものを残さなくてはけません。そこまで地域が努力してるという事は認めてもいいが、それが子どもの将来のためになるのか分からないのです。どんどん出て行きなさい、というのが子どもの将来ためになり、田舎であればあるほど私はそう思うのですが。世界を広く見てから、地域に戻ってくる事が肝心な事です。

A 委員

校舎制になってもちゃんと生徒が入ってくれば残します、という説明が必要だという事です。校舎制の全てが廃止という書き方はまずいなと思います。ある一定の生徒を確保しないと、という方向で書きたいです。

豊川委員長

その作業はこの委員会ではないですね。

C 委員

それは高校長協会も書いています。第2次計画で示された校舎制について賛否両論がありました。概ね、県民、保護者に理解されているものと思われます。校舎制となった学校には、特徴を打ち出せるように、教職員の配置や本校舎との交流事業等に財政的援助をしながら、実践成果を検証するべきです。このような取り組みをしても、なおかつ生徒数が一定基準を満たさない場合には、地域社会が統廃合もやむなしと判断したものとみなして、統廃合を推進するべきです。という事を書いています。

G委員

田子高校の話が出ていましたが、田子高校は三戸高校の分校から始まって、町の方々が一生懸命になり本校になったのです。その時には45人3学級規模で、入試をやっても落ちる子がいました。また、通学範囲が広く、岩手県北までスクールバスを3路線出して生徒を集めていました。しかし、数年後には子どもの数のピークが過ぎて、中学校がなくなり、子どもを集めるために中高一貫教育を初めても、今もどんどん減っています。田子神楽もありますから、個人的には残るべきではと思っていますが、そうは言ってもその考え以上に子どもの数が減り町の人口が減っているのです、果たして高校が残っていくだけの素地がその町にあるのかという疑問はあります。

郡部の学校とは言っても全て状況が違いますので、一概に郡部がどう、専門高校がどうという議論ではなく、突き詰めて行くのであれば1つ1つの学校について話をして行かないと結論が出ないような気がします。

豊川委員長

それは我々も頭に入れておかないといけませんね。そういう情報を事務局からいただけるのですか。

事務局

それぞれの高校へ、どこの地区、中学校から入学しているというデータや、町村の子どもの数の見通し等のデータは出せます。ただ、それが単純に地元の学校へ行くという訳ではありません。町村部の子どもでも、大きい学校で勉強したいという人はたくさんいますし、逆にその煽りか、市部の子どもが町村部の高校に行くという事もありますので、具体的な数を示す事が直結しない部分はあると思います。今別や大間の学校であれば通学は物理的にかなり難しいので近い数字にはなるとは思いますが、現状としてかなりの数が青森市内へ通っていたり、子どもだけでも下宿している状況ですので、おおまかな話はできますが個別の学校に何人入学するかとなると、ピンポイントで当たる自信はありません。

前田副委員長

1つ1つの学校についてと言うよりは、全県的にこういう傾向を示しているという事が分かれば良いのではないのでしょうか。

事務局

基本的に言えるのは、例えば、八戸市の子どもが南部工業高校に通っている事が良い事かどうかという事です。市内に通える学校があれば、その方がいいのではないのでしょうか。そういう所が基本になる気がします。

D 委員

旧南部町ですので南部中学校へ勧誘に行ったのですが、今年は南部工業高校へは3人しか希望していないとの事でした。みんな八戸市を希望しているそうです。三戸高校でもなく、八戸市の行きたい所へ行くようです。中学校でも、親と本人の希望なので止める事はできないのですが、そういった生々しい実態があります。前回は話しましたが、半分は八戸市から来ているのです。

A 委員

日本では同質化と言いますか、これくらいのレベルではこの学校というように生徒が集まるので、市部は比較的学力が高くて、郡部はそうではないというふうには実際はなりません。そのため、市部に住んでいる子どもが郡部に行かなくてはいけなくなり、また、逆もあります。

アメリカの学校を見ると、成績が低い生徒と高い生徒と一緒に入っています。日本の場合は同質化されていて、この学校にはこれくらいの点数の生徒というようになっており、県全体が序列化されてしまっています。アメリカの学校を見ると、総合学校で成績が低い者から天才もいるというように、子どもを受け入れる器が基本的に違うと見ています。日本全体が序列化されてしまっています。今に始まった事ではないでしょうが、そういう点で大きく違うのです。序列化のために移動しなくてはいけないという、日本・アジア独特の大きな移動と言いますか、日本全体が序列化の中で動いてしまっているのです。そのままの形で行けば良いのか、あるいは成績の低い生徒、高い生徒の両方を扱える学校が良いのか。教員の配置からは、なかなか許されないのでしょうか、やはり、高校教育の将来をどう持って行ったら良いのか、という視点で考えて行くのがおもしろいでしょう。

基本的には、保護者がどんな学校を望んでいるのかですから、少々遠くても通わせる事に駄目とは言えませんが。そういう意味で、全県一区になったのでしょから。

D 委員

八戸市を除いて考えると、三戸郡は土農工商が揃った恵まれた郡部なのですが、それでもなおかつ八戸市に行くのです。この事を考えると、あまり深い議論をしても時代がこうなのかもしれないという気がします。

B 委員

下北が昔の学校配置に戻ったという話がありましたが、市部でも元に戻すと言いますか、再編が必要だと感じています。自分がかつて勤務した学校を無くして行く事には、誰しも気が引ける部分ではありますが、全県的な立場に立って市部についても再編の議論が必要です。

D 委員

市部に大きい学校と目の届く学校を設置する、そういう構成があってもいいと思います。資料1の検討状況と高校長協会の意見はほぼ一致しているので、これを旨く文章化すれば、皆さんが納得できるように今までの議論が両方含まれる気がします。最低限2学級もやむを得ないというふうに盛り込まれていますし、これを見ながら各地域毎に見て行くといいのかなという気がします。

F 委員

基本的にこういう学級数を設定するという事は、統廃合をするかしないかという事ですよね。そうしない方法があれば良いのですが、そうせざるを得ないという事ではないのですよね。

平成21～30年となると、あと10年以上先を見るのはなかなか難しいです。今の政府の流れから行くと、小泉流の合理性を追求する動きが続くのでしょうか。教育再生会議が何をするのはまだ分かりませんが。

豊川委員長

先生達がきちんと生徒達を教育できる条件作りでしょう。いじめがあったり、世界史はやらないとかではなく、明るく楽しく生徒を教育できるような体制作りが必要です。そういう意味では、適正な学級数というのは、プロの先生達がおっしゃっているのに近づけるようにして、旨く説明したいと思います。

A 委員

これまではある一定の面積に一定の倍率という形できたのですが、今後はますます魅力のある学校は生徒が集まるだろうし、たとえ都市部にあっても学校経営がまずければ志願者が激減するという時代になると見ています。ですから、ここに書いてある学級数自体はいいと思いますが、志願者が多い時は増え、少なければ減る、という考えがあってもいいと思います。市部だから4～6学級ではなく、魅力と言いますか、あってほしい学校が選ばれて行く世界です。そのための全県一区ですから、そういう柔軟性が求められるのではないのでしょうか。

豊川委員長

校長先生の任期が短すぎませんか。2～3年ではいい高校は作れませんよ。7～8年とか、最低でも5年はいなくては特徴が出せません。ぽんぽん変わってたらどうにもならないです。

A 委員

今は団塊の世代がピークの頃なので、ある一定の高齢にならないと校長や教頭になれ

ない状態ですから、あまり残された年数を与えられないで学校経営するのは難しいのです。40代でも校長をやるシステムを考えているとは思いますが。

豊川委員長

学級数等についても色々な御意見が出ましたので、まとめられそうですね。市部とか郡部とかも出ましたが、基本的にはこの数で異論はないという事でよろしいですね。後は、さらっとやると事務的過ぎるので、その解釈を文字として上手にまとめて表現したいと思います。

A委員

2学級が1学級になり廃校になるという形だけではなく、市部においても、継続的に定員が6学級であるが4学級しか集まらないような状態が3年継続すれば学級を減らす、といった考えがあってもいいのではないのでしょうか。

事務局

これまでの教育委員会のやり方から見ると、市部は常に倍率があるのです。私学とのバランスもあると思いますが、そういった中で、6学級の学校が4学級しか集まらないという事はまずありえなかったのです。市部では、応募が1倍以上でも学級を減らしてきたのが実情ですから。何をもちて魅力を図るかというのは、非常に難しいです。これまでは郡部の子どもの数は減り、その学校に行きたい子が減るのが目に見えていたのですが、市部はある程度は行きたい子どもの数がある中で学級を減らしてきたのが今までのやり方です。そこを旨く整理して行かないと、逆に言うと、倍率があるからと言って統合ができない事も出てくる可能性があります。

A委員

中学校の先生方があそこの学校にはこれくらいの学力の生徒というふうに、自動的に割り振りしてしまい倍率が決まってしまうのでしょうか。ストレートで希望を出したら、急に高くなる学校と1倍に満たない学校が出てくるのでしょうか。やはり、中学校では落第する生徒を出したくない、という事で調整している訳でしょうか。

前田副委員長

第1次調査の倍率を見て調整しますよね。それは学校の教師だけでなく、親もですね。

豊川委員長

それでは休憩に入りますが、文章や説明についてはこれから検討しますが、数はどうでしょうか。高校長協会の意見の方がはっきりしていて良いのかなという気がします。

C 委員

高校長協会からは、奇数ではなく偶数でという意見がありますよね。学校運営の立場としては、習熟度別等をする時に偶数が展開し易いのです。

A 委員

教員配置の基本は偶数なのです。国の基準では、定数の項目によっては実際に7学級だとしても6学級と同じ分しか措置されない事もあります。高校の場合はそういう事があるのです。これ以上の学級だと措置するという基準には、奇数はほとんどありませんので偶数の方がいいのです。

前田副委員長

でも、だんだん減らして行く時には、奇数が必ず出てきますよね。

事務局

あくまでもやり易いという事です。

B 委員

例えば地歴の科目の授業では、2学級で3展開（世界史・日本史・地理）が多いのです。3学級3展開にすると生徒数がそれぞれ3分の1ずつではなく、必ずどこかの科目に人気偏るので、大きい教室がないと普通教室（40人規模）からはみ出してしまいます。ですから、地歴や芸術は2学級3展開が多いのです。

豊川委員長

我々が検討した中で、7学級とか3学級というのは中途半端な数字だったのですかね。

B 委員

やり易い授業形態を話していますので、実際に5学級の学校もありますし、それでやれないという事ではありません。

D 委員

全ての展開を考えると、7学級が教員配置の面から良いのです。7学級よりも8学級の方が良いですが。

C 委員

7学級でもやれるが、8学級がベターです。

A 委員

24学級だと事務職員を多くするとか、特典があるのです。あらゆる定数配置はそういう宿命なので、やはり7学級よりは8学級の方が良いとなるのです。

B委員

県立高等学校教育改革第2次実施計画により、平成20年度までには普通高校が最大規模7学級で、それより小さくなるという既定路線がありますが、県の進学を引っ張って行く学校については、7学級ではなくて8学級でという思いがあります。

A委員

余り数を多くしてしまうと、成績の上と下で帯状になってしまいます。そういう点では、指導しにくい面があるので多くすればいいというものではないと思います。分母がどれくらいであるかによって決まる訳ですから。分母がどんどん減っている中で、10学級にしたら下の80人は大変手が付けられない子どもが出てくると思います。6学級あたりで十分な場合があるのではないのでしょうか。

B委員

去年、学校視察で福島県に行きましたが、県の計画としては最大8学級を目指しているようですが、現場や地域の後押しで9学級とか10学級でまだ頑張っている学校がありました。

豊川委員長

ここで休憩に入ります。資料1は文章にして、後程皆さんに直していただきたいと思っています。

~~~~~ 休憩 ~~~~~

#### 豊川委員長

それでは始めたいと思います。まだ、普通科、職業学科、総合学科の話に入っていませんが、それも含めて資料2の方を進めたいと思います。

青森県は職業学科が多いという事でしたが、その辺の基本的な所について皆さんの御意見を聞いて方向付けができればと思います。資料はたくさんありますし、高校長協会の意見も段々と普通科を増やした方が良いという事になっていますので、これは1つの方向性だと思います。農業関係では、ある校長先生から聞いた事がありますが、これだけ農業分野が減れば縮小もやむを得ないだろう、という話をしていました。農業が社会から求められるならば大きくすれば良いし、今はやむを得ないのではないか、という話をしたら、その校長先生も賛成していました。関連して、工業高校とか商業高校もそういう面があると思います。それも含めて御意見をいただきます。

#### E 委員

よく就職先を頼まれます。昔は松木屋などもよくありましたが、商工会議所として各方面に働きかけていますが、なかなか受け皿がありません。地方、特に青森県はまだまだ景気回復していないというのが現状です。

#### 豊川委員長

商業高校そのものは不要なのでしょうか。

#### E 委員

商業分野では大手が進出していて、商店街は後継者がいないというのが現状です。ボランティアの会議に良く行き、その際に高校3年生を紹介していただく事があるのですが、まだ就職が決まっていないという方がすごく多いです。私達が駆けずり回って、青森の知っている方とか、ロータリーの方とか、ライオンズの方とか、お医者さんとかにお願いして採ってもらっていますが、学校の先輩後輩というのが大きな要因で、新設校だとなかなか難しいです。俺の後輩だという事になって採ってもらえる事がありますので、出身校は大きいと思います。就職については、商工会議所を通じても苦戦しています。各方面に働きかけ、議員の方々にも陳情し、企業回りもしていますが本当に厳しいです。

#### 豊川委員長

十和田工業高校はどうでしょう。

#### E 委員

十和田工業高校は、まあ、良いみたいですが、六戸高校やその他の専門高校の先生達は就職先が大変だと困っているそうです。フリーターにしておく訳にもいけないので、専門学校に送り込んだ方が良いという事も考えているようです。フリーターにしておく、素直な子でも心がすさんでいきますから。就職をなんとかしたいと地域で努力していますが、思うようには行きません。

#### 豊川委員長

青森県は専門高校が多く、パーセンテージでは35%位あるのですが、割合についてはどうですか。

#### D 委員

前回と同じく、今より少し減らしてもいいのではと思います。

#### A 委員

普通高校でありながら職業系の科目を履修させたり、専門高校の中でも進学を狙わせたり、クロスされるような傾向が青森県には結構あると思います。

三八地区には総合学科が設置されてませんが、各地区に1校くらいはあって良いだろうと思います。ですから、全県的に見るとある一定の割合になりますが、地区毎に見ると相当割合は違い、下北地区は学校数が少ないので総合学科の割合が高くなっているだけなのです。それはそれで良いとは思いますが、御意見が出ているように、職業学科のシェアを少しずつ減らして行けば、自然と普通科は増えて行くのだらうと思います。ただ、職業学科については、一時期非常に細分化した時期があり、商業の学科でも会計や簿記等に分かれましたが、そうすると、同じような学科ができてやはり不人気になってしまう学科も出てきました。むしろ、例えば工業高校では電気、機械、土木とあると、どんなに世の中が変化しても大方は対応できます。余りにも細分化する事が、逆に子ども達の進路を狭めている気がします。素人の目ですが、骨太の学科を設けその中で互いに関連したり、括り募集をする事で1学科1学級と固定せず整理して行けば、商業の学科が減った分でおのずと普通科が増えて行くのではないのでしょうか。我々が割合を決めるのではなく、大きな輪の中でやって行けば良いのではないのでしょうか。

#### D 委員

私も同じ意見です。

#### F 委員

百石高校で商業科が併設されているような併設校があるようですが、例えば商業科を考えた場合に、教員の方達がどれだけの知識を持ち、何人でやっているのかを考えると、併設校は整理した方が良いのではないかと思います。素人ですので詳しくは分かりませんが、外から見ていると、どういう教員がいてどんな教育をされているのか分かりませんが、効率的ではないという感じはしています。

#### D 委員

私も同じような意見を出しています。併設校は整理して、専門高校にまとめるという事を考えた方が良いのではないのでしょうか。商業科の併設校が結構な数ありますので、そういう意見を持っています。

#### 豊川委員長

高校長協会の御意見はどうなってますか。

#### C 委員

この資料には出ていませんが、職業学科の括り募集は7頁に出ています。

豊川委員長

括り募集とはどういう意味ですか。

A 委員

最初は一定数の募集をしておいて、2年生から学科に分かれるという募集方法です。これによって、1学科1学級の学校の学級減をする事ができます。

事務局

今は、学科毎に募集していますが、それを複数の学科をあわせて募集する方法です。例えば35人1学級の学科が2つある学校で、70人で募集するというのが括り募集というものです。高校長協会の御意見の、機械系等の系で分けた形で括っていけば良いのではないかと、というのは多分括り募集をするという事を言っているのだらうと思います。

C 委員

以前、東北大学工学部が括り募集をしました。入学してから色々な学科に分けた所、自分の希望する学科に行けない生徒が意欲をなくしてしまった事があって、今は学科で募集しています。ですから、功罪はあると思います。

D 委員

私が経験したのはまさにそのとおりです。医学部以外のどの学科にも行けるのですが、大学生ですら行きたい学科に行けないとなると、やはりかなり大きな精神的ダメージがありますので、そこが括り募集のネックです。生徒とのコミュニケーションは大学よりもあると思いますので、そこでフォローできるような体制ができれば括り募集でも良いのかなとは思っています。

前田副委員長

併設校に関係してですが、検討会議の時に、統廃合に伴って普通科と職業学科を一緒にした形の新しいタイプの学校を設置する事も可能性としてはあるのではないかと、という提案をした方がいましたが、それと関連はありますか。

事務局

現状では、普通科が3学級ありその隣に商業科が1クラスあるという形の商業科については整理した方が良いのではないかと、という御意見があります。それと、商業の学科と工業の学科を一緒にして併設するというのは大きな話になってしまいますので、その話を一緒ににはできないと思います。

## F 委員

果たして教育の効率上どうなのか、疑問に思います。

## A 委員

例えば三戸高校、百石高校、浪岡高校にも職業学科があります。併設校について色々な意見が出ていますが、そうかなとはいかない面があります。昔は普通科と家政科がある学校がたくさんありましたが、青森中央高校はなくなったり、百石高校は食物調理科になったりしました。それは、より高い専門性を求めてという事だった訳ですが、実は普通科と家政科があると、家政科の生徒が非常に劣等感を持つのでなくしましょうという事でした。専門性が商業の学科や工業の学科に比べて少ないという事で、わずかな併設校を残しただけです。

商業科の場合は、普通科の倍率よりも高くなっているという可能性もあるかもしれません。学校においてどちらの力があるのかと見た場合に、商業科の方が活力があるという学校もある気がします。

## 事務局

木造高校の商業科は全国でもトップレベルになり、推薦等を利用して進学率も非常に高いという結果が出ています。しかし、A委員がおっしゃったように、生徒同士で成績の上下の差がかなりあり劣等感を持っているという学校もあり、その学校によって違います。

## F 委員

一概には言えない訳ですね。

## A 委員

当時、新しい学科・コースの設置に関わりました。百石高校に食物調理科を設置する事によって、全県下と言うと大げさかもしれませんが、調理師免許を取りたい生徒が集まりますので定員を割った事はないのではないのでしょうか。特色ある学科を併設する事も、その学校を活性化するためにはあってもいいような感じがします。商業科はどうかと思いますが、食物調理科などは逆に県会議員からうちの地元にも設置してくれと言われるのではないかと思います。設置する事で吸収できる生徒がいればいいのですが、リンクして行かないとなかなか難しいのかなと思います。

## 事務局

弘前実業高校の服飾デザイン科にも食物関係があり、人気が無い訳ではありません。大湊高校、五戸高校、鱒ヶ沢高校、板柳高校等の、家政科があった学校からはなくなりました。

#### A 委員

家庭科の先生が20人くらい余った時代があったはずですが、商業科については、総合学科や他の学科との絡みの中で、吸収できる可能性は出てくると思います。やはり、三戸高校にしても、誇る事ができる学科の1つである気がします。木造高校や三戸高校の商業科が、商業高校よりもいい成績を上げる場合もある訳ですから。賞だけでは計れないとは思いますが、それだけ先生が一生懸命やっている学校もあるのです。

#### 豊川委員長

そういう学校だから、残さなければいけないという考え方も難しいですね。長い目で見た時に、それがいいのでしょうか。また、熱心な先生がいなくなれば、そこで終わりという事もありますから。しかし、併設する学科はなるべく少なくし、絞った方が良いという事は言えるのではないのでしょうか。

#### D 委員

普通科の学級数が減っても商業科が残る場合、普通科2学級で商業科1学級となるとどちらがメインだという話になりかねません。実際、三戸高校が商業科と進学の両方を頑張ろうとしてる中ですが、じっくり観察するとその中でパイがなくなっているのです。二兎を追う者一兎を得ずという意識もあるし、両方が活力を生み出すという考えもあるのですが、三戸高校については難しいのではないかと思います。県全体として、すっきり筋を通した方がいいのかなという気がします。

#### 豊川委員長

そういう視点は大事になってくるだろうと思います。

では、パーセンテージについては、普通科が漸増になるだろうという事で進めたいと思います。資料2ですが、全県的視野での統廃合の必要や統廃合以外の選択肢について色々な意見がありましたが、1つの方向で決めるとは言えないような気がします。最初の方には、通える所は少し整理した方がいいのではという意見がありますが、これは交通機関が問題だという事だと思います。また、通学するための補助や援助という話もあるようです。

#### A 委員

県が交通費を補助するのは止めた方がいいと思います。やるとすれば自治体に任せるべきで、実際に、バス代を出すなら下宿代も出してくださいという話にもなりますから。あくまで自治体に任せておくべきだと思います。

倍率についてですが、高校もほとんど義務教育のような感じですが、ある一定の倍率はあった方がいいと思います。やはり、勉強してもしなくても入学できるのでは、小学

校・中学校の教育も駄目にしてしまいます。保護者もだらしなくなり安易に考えてしまいますし、将来の事を考えるとある程度の競争力は必要です。要するに、下北だと高校に入れればいいという考え方が結構多いので、その先があるという事を考えさせるためには、ある程度絞るべきではないかと思っています。青森県の場合、全国で見た時に、せめて下から10～20番目くらいを目指すというのであれば、やはり競争力をつけて行かないといつまでも色々な面で影響が出てくるのではないかと思います。教育委員会は、基本的に倍率を1.12倍くらいで押さえて計算しているのではと思うのですがどうでしょう。

#### 事務局

地域によって違いますが、大体最終的には1.13倍くらいになっています。

#### A委員

私学への配慮もあるのでしょうか。やはり、ある一定の倍率を保ち、全入的な考えから脱皮して行かなくては駄目なのだろうと思います。

#### 前田副委員長

中学校の側からしても、その方がいいと思います。そうでないと、競争する場面が何もなくなってしまいます。小学校の運動会では、決勝戦の時にみんな揃って応援するというのはおかしいです。そういう点で、自分の力をどれだけ伸ばせるのかは分からないが、頑張って高校に入るという意欲を持たせる点からも、みんなみんながそうではないかもしれませんが、頑張れば入れるという目標がなくてはいけません。校内の試験でも、何もしなくても勉強する子は本当にいなくなりました。

#### F委員

統合するしかなければ、そこをどういう基準で説得するかという話でしょう。勿論、倍率は必要だと思いますが、定足数や他にも色々考えなければいけない事があるのではないのでしょうか。現実に削らなくてはいけないのでしょうかから。

#### 豊川委員長

そういう事がこの委員会には求められているのでしょうか。それを避けて、あちらこちらに対していいようなバラ色の話では済まないと思っています。いずれそういう場面に直面するでしょう。

#### A委員

世間的には、全員を収容できるようなやり方が一番いいのでしょうか、その延長線上で中学校や高校における学校教育の質を保てるのか、と考えて行くと、ある一定の統合

は必要でしょうし、その地域はこれくらいの学級数に絞りますという話はなくてはならないだろうと思います。結局勉強をしなくても入学できるのでは、むしろマイナスの方向で教育の質の低下を招くでしょう。ただ、世間的には、全員が高校に入って仲良く競争もしないのが一見いいような感じはしますが、これからはある一定の倍率をくぐって行く、その方が教育全体を正常な方向に持って行くでしょう。現場から見るとそう思います。

F 委員

現実として、今の学校数をそのまま残し学級だけを減らして行くという事は、選択肢としてあり得ないのですよね。

豊川委員長

ただ単に学級数を減らすのでは、正常な高校教育ができないという事が前提です。

F 委員

と言う事は、統廃合以外の選択肢はないという事ですね。

豊川委員長

残念ながら、ないのではないのでしょうか。

A 委員

要するに、2つの学校を壊して1つの学校を作るという方法も、お金がないから駄目だという事ですね。

事務局

先日、文部科学省の高校教育改革に関する全国会議に参加し他県の人から話を聞いたのですが、どこでも割と統合を実施しているのですが、新しい学校名になったとしてもどちらかの校舎をそのまま使う形で進めているケースがほとんどです。一部では新しく建設しているようですが、統合と言って学校名も校章も変えたが、実は元からある学校に寄せただけと話されていました。他県の事ですから、本県は別だという考えもあるでしょうが、お金もかなりかかると思います。

G 委員

是非統廃合をするという前提で進めた方がいいと思います。結局自分の尺度で見えてしまうのですが、普通高校に限っては、このまま残しても全ての学校に発展はないような気がします。現実には十年後を見た場合、子どもが減る事は現実としてある訳ですから。では、学級数を減らし1学年4～3学級になると、学習効果が余りないと思います。十



年後を前提に考えるなら、やはり統廃合をきちんと打ち出しておかないと、その場しのぎで1学級ずつ減らして行っても解決にはならないと思います。

もう1つは、中学校からほぼ全員入学に近い状態についても、併せて考えなくてはいけないのではないのでしょうか。普通科の数や普通科と職業学科のバランスについて、時間をおいて検討しないと危険な気がします。それこそ十年後には、高校進学やその後の進路に対する中学生の意識が大きく変わってくるのではという気がします。個人的な判断ですが、その2つを気にしています。

豊川委員長

統廃合については、皆さん反対ではないと思います。普通高校と専門高校のバランスですが、もっと方向性をはっきり出した方がいいという事ですか。

G委員

まず、中学生はほぼ全員が高校に進むのでしょうか。結局、どのように志望校を選ぶかとなった時に、工業高校へ進む人は純粋に工業を学ぶという気持ちが強いと思うのですが、それ以外の職業学科については、学力面で普通高校には行けない、あるいはその後の進路に対する意識が弱いというように、強い意志を持たずに選んでいる気がするのです。特に、商業高校についてはそういう感じがしますので、商業高校の割合を考え直した方がいいのではないのでしょうか。

豊川委員長

工業高校は、やはり強い意志で選ばれてるのですか。

D委員

そう言われればそうかも知れませんが、自信はありません。うちの学校では、毎年新入生に工業高校を本当に希望してきたのか、しかたなく入学したのかについてアンケートを採っているのですが、本人が強い気持ちで入学してくる生徒はデータ的には半分くらいです。

豊川委員長

半分でも、農業高校や商業高校に比べると割合としては高いのではないのでしょうか。

D委員

十和田地区ですと、商業高校も農業高校も専門の勉強の他に特別活動やスポーツ活動が盛んな学校ですので、そちらを目指して行く生徒が多いのです。ですから、それを目指して入学したという子は第1希望という事になりますので、パーセンテージは半分以上になるのです。

産業構造上、農業高校、工業高校、商業高校は必要だと思います。それを無くして、おそらく世の中は成立しないでしょう。工業高校へ入学した生徒に言うのですが、工業高校に来れば、穴掘り、潜る、夜勤で日本は成り立っているのだよと説明すると、親や本人も納得してくれます。今騒がれているように、高校で経済学を学んでいないので世の中が狂ってきたというような論調が出ていますが、そういう若い人材を育てていかないと青森県がアンバランスな考えに陥ってしまう気がしますので、やはり商業高校は必要だと思います。

#### G委員

勿論、私も商業高校は必要だと思っています。ただ、今のままでいいかと言うと疑問を感じるという事です。

#### 豊川委員長

に移りたいと思います。市部における普通高校の統廃合を大胆に行うべきだという意見が先程出ていましたが、賛成という事ですね。7学級が良いか8学級が良いかという話もありますが、それを踏まえて御意見をいただきたいと思います。中学卒業者の減少見込については、データがありますからそれに対して適正な規模をという事です。動態と対応はなかなか難しいでしょうが、様々な動きがありますので大まかに掴んでここで決めれば良いでしょう。新しいタイプの高校は、財政面からも新たに作るのは難しいという事です。別に古い高校が悪い訳ではないでしょう。学校の位置は問題になるかもしれないかもしれませんが。次の、普通高校で市部の中核となる受験校は残し、新設校で定員に満たない普通高校は統合する事については、皆さんの御意見が出されています。専門高校や総合高校で定員に満たない学校については、統合等の再考は必要です。地域との話し合いは必要ですが、ここでは意見を決めて作業に入ろうと思います。次は尾上総合高校の事が書いています。総合高校の処置が分からないのですが、八戸にはないという意見もありますが、総合高校は多い方がいいのか今のままがいいのか分かりません。

#### G委員

前の議論もありますが、総合高校の位置付けが今ひとつはっきりしません。総合高校という名前から、様々なヴァリエーションがイメージできます。実態は分かりませんが、尾上総合高校の理念は立派なものだと考えています。ああいう総合高校が他の地区にもできれば、中学生も斬新に感じるのかなと感じています

#### D委員

総合高校と総合学科の違いを説明してもらった方が早いのではないのでしょうか。

#### 事務局

総合学科のある学校を総合高校と呼んでいるのですが、進学だけではなく、職業観を身に付けながら、すぐに就職ではなく、高校3年間で色々な進路を良く考えながら探して行きます。「産業社会と人間」という科目が特徴的ですが、自分の将来や自分がどう社会と関わって行くのかを考えながら、進めて行くという事です。

また、特徴として単位制という事もあります。基本的に、生徒自らが学ぶものを選んで、その目標に向かって教科を選ぶのです。しかし、色々な研究大会等で言われるのですが、大学生でも自分の教科を選択するのは難しいのに、高校入学時の知識で科目を選ぶのは実際には難しい状況があるようです。ですから、実際の運用としては非常に学科に近い考えですが、系列という言い方で、福祉コース等という形で学校である程度用意したコースがあって、その中に教科が並んでいてその教科を選ぶという方式を取っているようです。1年は一斉に入学して、2学年から専門分野を加えてやって行く。ある意味、専門高校の学科の括り募集の話と似ている所があります。従来は職業学科と普通科しかない中で、第3の学科としてゆるやかに両方に跨る部分として新しく設置された高校が総合高校という事です。先程おっしゃったように、学校によって進むべき方向性に自由度があります。非常に職業に力を入れている学校、非常に進学に力を入れている学校、全国でもかなり差があるようです。

#### G 委員

尾上総合高校に入学した生徒自身は、どういう評価をしてるのでしょうか。特に初期の段階の卒業生に非常に興味があります。

#### C 委員

一時期よりは人気があるのではないのでしょうか。落ち着いてきているようです。

#### 事務局

設立当時は非常に人気があったのですが、総合学科の良さをなかなか理解してもらえなくて倍率が落ち、今また盛り返している所です。総合高校ですので、どうしても職業的・専門的に深い所には到達できませんし、かと言って、進学に向けて受験の手助けもどれだけできるかとなると難しい所があります。そこで、色々な特色を持ちながら、うちの学校は受験に力を入れている、うちの学校は就職や資格取得に力を入れている、というように、同じ総合学科を名乗っていても特色を出して行く、というのが今の姿かな見えています。

#### C 委員

メリットが見えにくいのです。話題になるのは大変な事やデメリット部分だけが伝わり、余り増やすべきではないという意見もあります。ただし、埼玉県のように成功している例もありますので、まだ青森県は機が熟していなく検証も済んでいない段階だと思

います。

#### A 委員

平成4年度くらいに、全国に総合学科を作れというお話しがあったような気がします。青森県では七戸高校がスタートでした。母体の高校が普通科、農業科、商業科といった色々な顔を持った学校だったので導入し易かったのでしょうか。話を聞くと、総合学科設立時には410点くらいの生徒が入学していたそうですが、出る時にはさんざんであったという話を聞きました。すると、成績が落ちてくると服装や行動もだらしなくなり、地域から見ると、なんだあの学校はという話になり、地域の中学校の先生に見放され定員ぎりぎりという状態が続いたようです。岩手県の岩谷堂高校という高校が先進的でしたが、そこもさんざんな学校になったようで、軌道修正という事で進学の方付けをして今は落ち着いたようです。やはり、勉強はさせなければならないのです。総合高校というのは曖昧模糊とした形で出てきたものですから、専門高校のようにインパクトはなく、国からの設備投資もままならず、県でやる事もできず、定員もほどほどという事で、なかなか寺脇先生が考えたようには行かないという現状だろうと思います。ただ、出口をどうするかで高校は相当変わりつつあるようですので、福祉系を持つ高校は資格を持たせようとするなど工夫されている感じがします。大湊高校も、昔のように進学ができる学校を作り上げて行こうと考えており、最初は大学進学が目標とストレートに言う事がはばかれるようなスタートではなかったかと思っていますが、最近は声を大にして言えるような総合高校へ変化しつつあるのではないのでしょうか。そういう意識変革によって、その学校により違いが出てきているのだらうと思います。先生達の取り組み次第で、相当地域に受け入れられている学校もあるでしょうし、まだ様子を見られているという感じの学校もあるでしょう。やはり新しいタイプの学校ですから、根付くのは難しいかなとは思いますが。

ただし、よその国は全部が総合学科なのです。日本は進学か職業かと分けたい性格なので、中間的なものは受け入れ難いようです。しかし、育て方だろうなと思っています。

#### 前田副委員長

尾上総合高校の場合は、中学校でドロップアウトした子ども達や不登校の生徒が定時制に入学していますので、そこで元の自分を取り戻して元気に卒業する子ども達が何人もいます。そういう点では、校長会の意見にあるような受け皿的学校を今は尾上総合高校が担っているのではないのでしょうか。

#### C 委員

弘前高校から行った子もいます。

#### G 委員

総合高校と言っても、進学をメインにした総合高校はほとんど普通高校なのではないかと思  
います。進学を第一に考えている総合高校と普通高校との違いがはっきりしない事から、  
総合高校のイメージが湧きにくいという事になっているのではないかと思います。

#### B 委員

単位制では先取りという形で、最初に必修科目を中心に履修させ、後は自分の学びたい  
科目を履修して行くというように、全員が同じ事をしなくてはいけないという事を旨  
く排除して、良い方向に進める事が出来るメリットがあります。その反面、色々な科目  
を設定した時に、そのための教員を配置してもらえるのかという心配があります。学校  
が自由に、こういう生徒を育てたいと構想を持って、それに適した教員配置の可能性  
の問題に行き当たるのです。

#### 事務局

総合高校の課題の1つに、学級数の規模がないと先生が少なくなり、選択できる系列  
やコースがたくさん作れない訳です。すると、生徒の選択の幅が少なくなり、本来のメ  
リットである多様な選択幅のある教育課程を組む事ができなくなってしまいます。小規  
模の総合高校というのは余り本来の目的を達成できない学校になってしまい、全国でも  
課題とされ意見が出されています。やはり、ここでも規模が重要になってきているとい  
う話でした。

#### A 委員

工業高校では何十単位を取らなくてはならないと決められていて、専門資格を取れる  
訳ですが、総合高校ではそこまで行かず、資格とか具体的に表れる前の段階なのです。  
ですから国も中途半端な設備整備しかしてくれないですし、やはりこの資格を取るた  
めにはこういう機械が必要だとなってもやってくれないのではないのでしょうか。最初  
はやりましたが、話題が無くなったらそれ以上の設備整備はしてくれないという事も  
あります。そういう事で、今後の方向性を考えた時に、今までの高等学校の先生が歩ん  
できた受験を目指すという方向が、金もかからずやり易い方向だろうという事ではな  
いのでしょうか。本来は一定の選択幅と教員数と施設や設備が揃わなければ、本来  
の総合高校としての発展はありえないのです。日本の教育の弱さに歯がゆさを感じ  
ます。

#### D 委員

総合学科の学習指導要領は見えていませんが、工業高校は最低30単位です。全国  
の工業校長会では30単位では不足なので、元に戻して35単位に引き上げようとい  
う動きになっています。商業高校を総合高校へという形で繰り入れてしまうと、  
より専門性が薄れてしまい、そこは危険だと思います。商業に関する勉強が少なくな  
るという事は、職業観なり進路に影響する部分があります。最初にできた七戸高校  
は、最初は色々なコ

ースがありました。それがいつの間にか縮小されコースが少なくなり、本来の目的と変わってしまったのです。確か当初は7コースあったのが、今は4～5コースしかありません。また、最近はブームなので福祉コースに行ってしまうという話を聞いています。逆にもっと具体的に言えば、例えば八戸市内の高校を2つくらい減らして1つを総合高校にするという事であれば、逆に保護者のニーズに応えられないのではないかという懸念があります。

#### 事務局

福祉の系列という事ですが、あるのが大湊高校、七戸高校、青森中央高校、木造高校ですが、その中で介護福祉士の受験資格を得られるのは大湊高校、七戸高校、青森中央高校です。これが、今後は制度が変わるのではないかという事で、厚生労働省の研究会で方針が出ています。第1専門委員会で話す事ではないかもしれませんが、介護の系列や福祉の系列が今後どう進んで行くのかも不透明な状態です。これまで総合学科がそういう所を拠り所にして頑張ってきているのに、実習の時間数が増えていて3年間ではとても無理になりそうです。

#### A委員

張り合いを持たせようと頑張っているのですが。大湊高校や七戸高校というのは、以前三沢高校や田名部高校にあった衛生看護科から看護師の資格を持った方が移動してそういう形になっています。実習を増やされると、夏休みも出席させて集中的にやる等の無茶な事をしなければならなくなります。厚生労働省というのは、高度医療等の形で何でもかかる時間を増やしてしまいます。以前は衛生看護科の準看護師は駄目という事で、黒石高校に専攻科を置いて5年教育とし、その他の4つの学校からなくして1つにしたというのと同じ事です。

総合学科について、国からは各地区や教育事務所単位に1つ設置するというような要求はないのですか。

#### 事務局

制度が始まった段階では通学区域に1つという目標がありましたが、本県は全県一区ですので。あえてもっと作れという事はないです。

#### A委員

それでは、三八地区に作るという事は実情と合わないのですね。

#### 事務局

必要があればという事です。

A 委員

そうしますと、総合学科のシェアを全県下で何パーセントにしようという事は根拠がないのですね。

豊川委員長

今は8パーセントですが、これは東北地区で一番高くなっていますね。

事務局

本県が積極的に導入してきた結果だと思えます。

豊川委員長

それでもなかなか魅力のある学校ができないようです。

A 委員

平成30年度までを考えると、魅力のない学校をわざわざ設置する必要はない気がしますし、先行きが不透明な感じがします。

豊川委員長

少し考える時間が必要だと思えます。

地域の理解を十分に得てからというのは、これは大前提です。

A 委員

行政の進め方としては、内密にして一発でばちっとやった方がやり易いのですが、そういう方法がいいのかは悩む所です。今までは、こちらである程度固めてこういう答申を出させてというように進めてきた訳ですが、一見地域の要望を聞いているようで聞いていないのが現実です。どういう形で地域にお知らせするのか、答申ができた段階で地域でスクールミーティングという形でやってしまうのが良いのか、その手法が問題です。今言ったように、行政がこう決めましたと進めると、地域の意見は実際は入らないのです。事前に説明会のようなものをして、この地域はこうしたいという説明をしてから進めるのか。

豊川委員長

私が言ったのは、ここではこの委員会の意見を決めればよいという事です。決まった事に関しては、地域の理解を得て進めてください。別にこの委員会は秘密ではありませんので、情報が流れても構わないのですが、最後にはこの委員会の意見を検討会議に提出するだけで、私達は地域の理解を得る必要はないという意味です。

#### A 委員

こちらで固めてしまってから新聞等で発表してしまうやり方は、地域から反対や陳情が出たりします。それを繰り返すと言うのですか。実際に地域に案を戻して、住民の意見を聞くのかどうか問題です。

#### 豊川委員長

この委員会が答申の途中で、案を地域に下ろす必要はないと思います。秘密ではありませんので、大事な事を話し合い、最初にこうあるべきだという事を決めて良いのではないのでしょうか。

#### 事務局

今までは、A 委員がおっしゃったように、県が答申を受けて計画にまとめて発表してしまうという事も過去にはありましたが、今は実施計画の段階で案を事前に県民に対して示し御意見を伺います。当然今の第2次実施計画の策定の際にもやっていますので、答申を受けて計画を立てる段階で、意見を伺って進めて行かなければならないという認識を持っています。

#### 豊川委員長

農業高校と商業高校を統合する事についてはどうですか。

#### C 委員

メリットもあります。例えば、2学級の学校と2学級の学校が一緒になると、4学級の教員配置がもらえるのです。生徒には活動費や仲間が増えるメリットがあります。ただ、単純に足してできるのか、という問題も別にあります。メリットもたくさんありますので、メリットが生きるような地域の学校を探して答申すると言う事もあるのではないのでしょうか。生徒のためには、メリットが多いのではないかと思っています。

#### 豊川委員長

現場で問題がなければ、考えてもいいのではないのでしょうか。

#### 前田副委員長

他県で前例があるのですよね。

#### D 委員

頑固なのですが、この前と同じ意見で、専門高校はそれぞれ独立して教育を受けさせた方が良いと思います。やはり、モチベーションが違うという発想です。単純に専門高校にこれまでない学科を組み入れた時、商業科は本当にお金がかからないのか非常に疑



問です。商業高校の中身からすると、相当お金がかかると思います。

A 委員

先生の給料も違いますから。産振手当があるのは、工業高校、農業高校、水産高校だけです。

豊川委員長

例えば、三本木農業高校と名久井農業高校や柏木農業高校のように、そういうトップの高校と、学生が減っているような学校の問題を同一視できますか。

D 委員

そういう考えは浮かびましたので、先にケースバイケースだと確認しようと思いました。次の会議では、商業科を減ずる方向性が出てくるのではないかと思います。

E 委員

活性化している学校は良いのですが、七戸高校に商業科があったような併設は止めた方が良いのではないのでしょうか。

事務局

現実問題として、商業高校と農業高校で距離的に近い学校がないのです。距離を関係なく統合しようとするればどんな学校とでもできるのですが、現実を考えると通ってくる子ども達の地域も相当違います。他県では近くに学校があって統廃合する中でという事だと思っておりますが、それを視野に入れた時に本県の場合はあらかじめ分散された配置ですので、どことどこというのが見えないのです。

A 委員

農業高校は伝統校で、人を寄せ付けない所もありますから。

D 委員

三沢商業高校ができたから、三本木農業高校の商業科がなくなったんですね。

豊川委員長

高校の特徴もあるし、このまま統合するという事はないのですね。

A 委員

併設されている職業学科分を持ってくるという事はあるかもしれませんが、学校同士というのはかなり難しいでしょう。例えば、どこかの農業高校に、三戸高校から抜いた

商業科を足す、というふうにやった方が良いのかもしれませんが。

#### D 委員

商業科はくっつき易いかもしれないという意識はあるが、設備にお金がかかる気がします。

#### A 委員

農業経済という科目もあり、区別が難しい所もあります。

#### F 委員

山形県酒田市の会議で聞いた所では、普通高校 1 校と専門高校 3 校を一緒にしようという答申が出たので、普通高校と工業高校、農業高校、商業高校を一緒にしようとしたが、結局は駄目になったという事でした。

#### A 委員

言うのは良いが、実際に人間の気持ちや歴史が入るとなかなか難しくなりますから。

#### 豊川委員長

生徒数を調べてという事ですが、先程お話がありましたように調べても効果はないという事が分かりました。

職業学科は 1 学科 1 学級を前提にするという事は、これでいいのではないのでしょうか。

第 2 次実施計画と同様に統廃合の道筋は公開して行くしかないでしょうし、いずれは公開しますが、この委員会で公開する必要はないと思います。

新しいタイプの学校の設置は難しいと思いますが、どうでしょうか。

#### 前田副委員長

検討会議の中でそういう話があり、モデル的にやってもいいのではという話でした。特色を持たせるとすれば、そういう方法を探ってモデル的にやってみてはと思いました。

#### 豊川委員長

学校配置については、皆さんで考えておいてください。

6 地域の生徒数や適正な学級数については、普通高校、総合高校、専門高校の割合を基準として議論するしかない、という事で進めてはどうでしょう。

#### D 委員

具体的な方策ですから、先程の適正規模等、全体として共通理解を得られた事について、6 地区を個別に議論して行くという意味です。ですから、例えば工業の学科の多さ

について、基準をある程度置いて地区毎に議論した方が良いのではないのでしょうか。

前田副委員長

ブロック毎というよりも、大きく3つのブロックで考えても良いのではと思います。教育事務所も、いずれはそのような区分けになるのではないのでしょうか。

豊川委員長

最後は都市部においても高校の廃校を前提としなくてはと言われましたが、やはりそうなると思いますし、議論しなければならないと思います。

時間になりましたが、次回にはある程度整理して作文の方に進みたいと思います。今日は結構時間がありましたので、様々な御意見をいただきましたと思います。

C委員

統合の方向で物事を考えるのがこの委員会ですので、次回はどの学校とどの学校という話まで進めるのでしょうか。そういう方向で考えてはきますが。

豊川委員長

統合を進める事は大体決まりましたので、次回1月の委員会では、必要性和可能性に踏み込んで作文し、案を作った方がいいと思います。

D委員

次回は、6地区という事を前提にして、この地区は何学級の普通高校が何校というように具体的に案を出すという発想でよろしいですね。

豊川委員長

地区毎の学校配置までを考えます。第2次実施計画の校舎制導入後の在り方ですが、次の10年間の新たな校舎制導入の可能性について考えたいです。実現性がないような感じもしますが、具体的な事を示したいです。

D委員

専門高校ですと、学科や募集形態の所まで結論を出さないと、第2専門委員会が動けないのではと思います。例えば、青森工業高校は今は7学科ですが、例えば第1専門委員会で6学科6学級が必要だとした場合、第2専門委員会で募集する時に括った系列毎が良いのか学科毎が良いのかを議論してもらおう、というようにある程度の具体性が出てこないと困るのではないのでしょうか。

豊川委員長

大枠では決まったような感じがありますが、具体化に向けて考えて行きましょう。

#### 事務局

どこかの時点ターゲットにしてやるしかないのではないのでしょうか。この委員会で個別具体的に何年にどこの学校を統合するべきかを決めていただければありがたいのですが、それは難しいと思いますので、具体的にイメージしながら方向付けをして、例えば専門高校は将来的には6学級にして行く必要があるという話をしていただければいいと思います。それを元に、普通高校はこの地区で何学級規模で何校必要だと示していただければ、我々の方でそれに合わせて具体的に計画を作りたいと思います。実際に個別の学校名が出る事もあるでしょうが、最終的には大まかな方向性を示していただければいいのではないかと思います。

#### 豊川委員長

例えば、市部と郡部の配置の在り方、という程度のものではないのでしょうか。勿論情報は必要ですが、この委員会でそこまでは作れないでしょう。

#### 事務局

答申の中で具体的に書かれますと、にっちもさっちも行かなくなる事もありますので、計画の段階で踏襲して行くしかないのではと思います。大きい枠で意見をいただいたものを我々が受けて、計画段階で県民に示し計画を作っていきます。

勿論、地区毎の人数等について、今回は減少傾向をお見せしましたが、今後は人数の定義や地域毎の減少傾向について詳しくお知らせします。

もう1つですが、やはり6地区を3地区にすると非常に括りが大きくなり、それが良いのかは分かりませんので、今の段階では現状の6地区で考えています。

#### D委員

人文科、外国語科、表現科、観光科、スポーツ科学科のような特色のある学科については触れておかないと、総学級数が掴めないのではないかと思います。

#### 事務局

その在り方については、第2専門委員会に考えていただく事を想定しています。人文科も含めて普通科の学校と見て、その中で残るのか普通科に転換するのは第2専門委員会で学科の意味を吟味していただければ答が出るのではないのでしょうか。実際に検討して行く中で考えが合わない可能性はありますが、大きい括りの学校単位で見ていただければいいのかなと思います。ですから、三戸高校のように商業科を併設している学校は普通科3学級規模とみなしていただいた上で、これからどうやって行くのか考えてもそれほど外れないのではないのでしょうか。

D委員

例えばですが、八戸東高校の表現科はこちらのイメージとして5学級というイメージがあります。第2専門委員会で表現科が必要となると、普通科は4学級になりますが、あそこは進学に力を入れているのに4学級で進学体制が維持できるのかという心配をしました。具体的にこちらで学級数を出した後に、第2専門委員会で表現科が残ってしまうと進学体制がとれるのかという心配があります。

事務局

どの学校が5学級という限定までは、行き着かないだろうと思っています。進学に力を入れて行く中で、八戸東高校の表現科はない方がいいとなるかもしれませんし、頑張るのかもしれません。ですので、個別具体の学科が併設されている事については、実施計画の段階で考えた方が良いのではないのでしょうか。

前田副委員長

特色ある学科をどうするかという事を話題にすれば良いのですか。

事務局

話題にしていただく事は構わないのですが、余り踏み込んで行くと学科の意義や検証になってしまいますので、そうなるとこちらへの本来のお願いとは異なってきます。

豊川委員長

情報は必要ですが。

それでは、次回まで資料を読んできていただくようお願いします。事務局にお返しします。

閉会

事務局

長時間にわたりお疲れ様でした。資料を読んでいただいて、疑問点等が出てきましたら、事務局の方に御連絡を頂ければ対応しますのでよろしくをお願いします。

